

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	15-127	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p style="text-align: center;">Relationship of Smokefree Laws and Alcohol Use with Light and Intermittent Smoking and Quit Attempts among US Adults and Alcohol Users.</p> <p style="text-align: center;">アメリカ成人・飲酒者における、喫煙規制・アルコール摂取と少量・間欠的喫煙、禁煙の試みとの関連</p>		
執筆者		
Jiang N, Gonzalez M, Ling PM, Glantz SA.		
掲載誌		
PLoS One. 2015;10(10):e0137023. doi: 10.1371/journal.pone.0137023.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙、法律		26445314
要 旨		
<p>目的：少量喫煙と間欠的喫煙(Light and intermittent smoking;LITS)は近年一般的になってきている。また、飲酒者は喫煙する傾向がある。地域全体ならびにバーでの喫煙規制(以下、まとめて喫煙規制)が現在の喫煙、LITS、禁煙の試みに関連していたかどうかについて、アメリカの成人飲酒者を対象として研究を行った。</p> <p>方法：地域住民を対象とした横断研究。2009年の National Health Interview Survey と 2009年の American Non-smokers' Rights Foundation United States Tobacco Control Database から得られたアメリカの成人 27,731 名のデータを解析した。まず多変量ロジスティックモデルで喫煙規制および飲酒頻度と以下の 3 項目との関連を検討した。(1)全成人(対象者)における現在の喫煙者(2)LITS の 4 パターン[非日常的喫煙、日常的少量喫煙、非日常的少量喫煙、頻度の少ない喫煙](3)禁煙の試み。また、16,961 名の飲酒経験者に限定して、喫煙規制の浸透度や短時間大量飲酒の有無が上記 3 項目と関連しているか調べた。これらのモデルは人口動態とたばこ 1 パックあたりの金額で調整した。また、喫煙規制と飲酒状況の相互作用についても検討した。</p> <p>結果：喫煙規制の法律が厳格であるほど、全成人、飲酒者における「現在喫煙者」のオッズが低かった。この関連は飲酒頻度や短時間大量飲酒の有無によらず同様に見られた(相互作用は無かった)。飲酒頻度が高い、または短時間大量飲酒歴を有する者は「現在喫煙者」であるオッズが高かった。喫煙規制の浸透度や飲酒状況は、LITS や禁煙の試みとの関連を認めなかった。</p> <p>結論：喫煙規制、バーでの喫煙規制が強いと飲酒状況によらず喫煙率(割合)が低い傾向があった。このことは喫煙の法規制を支持する結果である。たばこの消費量を減らし、禁煙の試みを増やすためにはより厳格な喫煙規制法が必要であろう。</p>		